



TITLE:

星座と星名(改訂稿)(1)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 星座と星名(改訂稿)(1). 天界 1943, 23(261): 94-98

ISSUE DATE:

1943-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168569>

RIGHT:

星座と星名 (改訂稿) (1)

On the Constellations and Star-names.

山 本 一 清 *Issei Yamamoto.*

天全體を若干の部分に分けて、之れを“星座”と唱へる。星座はすいぶん大昔しから人が發明したもので、學曆紀元前後、即ち今から約二千年前の頃にギリシヤでは既に四十八座が數へられてゐた。之れは全部トレミのアルマゼストに載つてゐる。中世に至つて天體觀測が盛んになり、又、南の方まで天の研究が擴張せられると共に、新しい星座が澤山作られた。ところが遂には此の星座が餘りに多く作られると共に、人々によつて、同じ星を違つた星座中に入れたり、又、勝手な星座を作つたり、よほど不統一、無秩序になつて、人を迷はしたが、其の後、此等の多くの星座の中から漸次淘汰が行はれて、現今は凡そ八十九座が主として用ひられてゐる。此の八十九座の名稱は別表の通り。

一體、この星座が如何して出來たかといふのは、天文學上頗る興味深い問題である。吾々の眼は星の一つ一つを眺めただけで、其の星の實體の大小や遠近が區別出来るものでない。言はゞ、總ての星は何の區別も無く、同一の距離にあつて、恰も大地を掩ふ一の圓天井の内面に羅列してゐるやうに見える。此等の星は、見たところ、運行が頗る簡單で、つまり日週運動と年週運動とがあるばかり、星と星相互の距離は永久不變である。幽玄なる此等の星の正體が今日の如く物理的化學的に解せられるとは、昔の人が夢にだも考へなかつたところであつた。だから見えるまゝの大星小星を、隣り同志のものだけ一かたまりづゝに分けて置けば、彼等の實用のためには充分であつたのである。星座が種々の動物や人名で呼ばれてゐるのには、皆、何がしかの理由が在つたのであらうが、今は多く其の理由は不明である。しかし、星座に對する第一印象は昔の人も今の人も皆或る程度までは共通してゐるものであつて、今の人が星に親しむ場合に、星座の名は充分に其の趣味を満足せしめる。自分の經驗から推して見ても、天文の趣味は半ば以上星座の趣味であるといへる。

昔しの天文書を見ると、各星座には一々其の名に相當した畫が描いてある。そして其の畫は、たとひ畫く人が違つても、畫き方は皆同じ畫であつて、例へば巨人オリオンは常に棍棒を振り上げて頭を左に向けてゐるし、牛は亦常に東の方に角を突き出してゐる。そして一々の星は畫中でチャンと一定の場所にあるやうにしてある。例へば、レグルスは獅子の胸に、アルデバランは牛の右眼

に、シリウスは犬の首環にきまつてゐる。そして星の位置を言ふのに、今ならば経度何度、緯度何度と言ふべきところを、昔は“獅子の頸にある星”だとか、“牛の右眼の星”だとか言つたのである。それで星座は昔の人には、現今よりももつと實用的に重要なものであつたので、従つて一々の畫の書き方も人々の隨意では不可であつたのである。

17世紀の始め(1603年)、バイエル(Johann Bayer)がウラノメトリア(Uranometria)といふ星圖を出版し、一つ一つの星座の中で、光の最も強い星から順に、アルファ、ベータ、ガンマと、ギリシヤ文字を當てはめた。此の呼び方は今も用ひられる。例へばヴェガは琴座アルファ、北極星は小熊座アルファといふ類である。しかし、或る星座には肉眼で見える星が30も40もあるので、バイエルはギリシヤ文字24字が盡きると、其の次にはローマ字A b c…を用ひた。之れも勿論、其のまゝ今用ひてゐる。

其の後(1725年)、英國のフラムステッド(John Flamsteed)が、約3000個の星の目録を發表したが、彼れは前のバイエルの符號に御かまひなく、各星座に屬する星を赤經の順に1, 2, 3…と數字を當てゝ行つた。此のフラムステッドの星はバイエルの星よりも數が遙かに多いので、今でもバイエルに無くてフラムステッドにある星は、其のフラムステッドの數字で星を呼ぶのである。御丁寧な場合にはバイエル名とフラムステッド數とを並べて呼ぶこともある。例へば

小犬座 第3號 ベータ (3 β Canis Minoris)

といへば、第3號は、フラムステッド數字、 β はバイエル名である。

近年になつて、益々多くの星を取扱ふやうになつたので、とてもバイエルやフラムステッドの方法だけでは追つかずなり、多くは其の星の登録されてゐる或る恒星目録中の登録順番號で、其の星を呼ぶことになつてゐる。例へば

グルームブリッジ 1830

といへば、之れはグルームブリッジ(Groombridge)が發表した目録の第1830番目の星といふ意味である。だから此の場合には星座の名を呼ばない。

現今用ひられる星座は、別表に並べた89座である。表の第1段は今便宜上、星座につけた番號で、凡例を挙げると、

先づ、トレミ(Ptolemy)が紀元145年、其の著アルマゼスト(Almagest)に舉げた48座は左の3種類に分けてある。即ち例へば

(7) とは黄道に沿ふた動物圈12座の第7番星座

北 3 とは黄道以北の星座第3號

南 8 とは黄道以南の星座第8號

の意味である。其の他(即ち第49座以後)は皆後世に發明されたもので、即ち

49~60 はバイエル星座 (1603年)

星座一覽表

(山本一清編)

番 號	學 名 (ラテン名)	邦 譯	肉眼星數	夕暮南中期
北 1	Andromeda	アンドロメダ	37	十二月(天頂)
73	Antlia	ボ ン プ	3	四 月(南天)
49	Apus	風 鳥	8	•
(11)	Aquarius	水 瓶	36	十 月
北 2	Aquila	鷲	28	九 月
南 1	Ara	祭 壇	8	八月初
南 2	Argo	ア ルゴ 船	125	四 月
(1)	Aries	羊	15	二 月
北 3	Auriga	馱 者	35	二 月(天頂)
北 4	Bootes	牧 夫	36	六月末(天頂)
74	Caelum	彫 刻 具	4	二 月(南天)
62	Camelopardalis	ジ ラ フ	22	二 月(北天)
(4)	Cancer	蟹	15	四 月(天頂)
66	Canes Venatici	獵 犬	11	五 月(天頂)
南 3	Canis Major	大 犬	41	三 月
南 4	Canis Minor	小 犬	8	三 月
(10)	Capricornus	山 羊	21	十 月(南天)
*	Carina	龍 骨	34	三 月(南天)
北 5	Cassiopeia	カ シ オ ペ ヤ	38	十二月
南 5	Centaurus	セ ン タ ウ ル	56	五 月(南天)
北 6	Cepheus	セ フ エ ウ ス	27	十 月(北天)
南 6	Cetus	鯨	37	十二月(南天)
50	Chamaeleon	カ メ レ オ ン	7	•
75	Circinus	コ ム パ ス	4	•
63	Columba	鳩	12	二 月(南)
61	Coma	髮	18	五 月(天頂)
南 7	Corona Australis	南 冠	8	八 月(南天)
北 7	Corona	冠	15	七 月(天頂)
南 8	Corvus	鳥	8	五 月(南天)
南 9	Crater	コ ツ プ	15	四 月
64	Cruce	十 字 架	9	五 月(南天)
北 8	Cygnus	白 鳥	61	九 月(天頂)
北 9	Delphinus	海 豚	8	十 月
51	Dorado	旗 魚	9	一 月(南天)
北10	Draco	龍	52	七月頃
北11	Equuleus	小 馬	4	十 月
南10	Eridanus	エ リ ダ ン 河	56	一 月
76	Fornax	爐	5	十二月(南天)
(3)	Gemini	双 子	33	三 月
52	Grus	鶴	14	十 月(南天)
北12	Hercules	ヘル ク レ ス	49	七 月
77	Horologium	時 計	5	一 月(南天)
南11	Hydra	ヒ ド ラ	40	四一六月
53	Hydrus	水 蛇	8	
54	Indus	イン デ ヤ ン	8	十 月(南天)

星座一覽表 (つづき)

番 號	學 名 (ラテン名)	邦 譯	肉眼星數	夕暮南中期
67	Lacerta	蜥 蜴	16	十 月
(5)	Leo	獅 子	32	五 月
68	Leo Minor	小 獅 子	8	五 月(天頂)
南12	Lepus	兎	19	二 月(南天)
(7)	Libra	天 秤	18	六 月
南13	Lupus	狼	32	六 月(南天)
69	Lynx	山 猫	17	四 月(天頂)
北13	Lyra	琴	18	八 月(天頂)
79	Mensa	平 山	2	・
78	Microscopium	顯 微 鏡	4	十 月(南天)
65	Monoceros	一 角 獸	27	三 月
55	Musca	蠅	11	・
80	Norma	定 規	8	七 月(南天)
81	Octans	八 分 儀	5	・
北14	Ophiuchus	蛇 使 ひ	41	七 月
南14	Orion	オ リ オ ン	58	二 月
56	Pavo	孔 雀	21	九 月(南天)
北15	Pegasus	ペ ガ ソ ス	38	十一 月(天頂)
北16	Perseus	ペ ル セ ウ ス	46	一 月(天頂)
57	Phoenix	鳳 凰	18	十二月(南天)
82	Pictor	畫 架 け	8	二 月(南天)
(12)	Pisces	魚	30	十一月
南15	Piscis Austrinus	南 魚	10	十一月(南天)
*	Puppis	鱧	53	三 月(南天)
*	Pyxis	羅 針 盤	10	・
83	Reticula	レ チ ク ル	7	・
北17	Sagitta	矢	6	九 月
(9)	Sagittarius	射 手	48	八 月(南天)
(8)	Scorpio	蝎	32	七 月(南天)
84	Sculptor	ア ト リ エ	11	十二月(南天)
70	Scutum	楯	6	九 月
北18	Serpens	蛇	25	七 月
71	Sextans	六 分 儀	5	一 月
(2)	Taurus	牛	59	四 月
85	Telescopium	望 遠 鏡	6	八 月(南天)
北19	Triangulum	三 角 形	5	十二月(天頂)
60	Triangulum Australe	南 三 角 形	5	・
59	Tucana	ト ウ カ	12	・
北20	Ursa Major	大 熊 座	45	五 月
北21	Ursa Minor	小 熊 座	14	六 月(北天)
*	Vela	帆	28	四 月(南天)
(6)	Virgo	乙 女	38	五 月
58	Volans	飛 魚	7	・
72	Vulpecula	狐	15	九 月

61	はテュコ (Tycho Brahe) の星座	(1610年)
62~65	はバルチウス (Jacobus Bartschius) の星座	(1624年)
66~72	はヘベリウス (Johann Heveiius) の星座	(1690年)
73~85	はラカイユ (N. L. d. Lacaille) の星座	(1752年)

又 * 印のあるのはアルゴ座を小さく区分した一々の星座である。総計89座になる。

表の第2段はラテン語の學名で、之れも正直に書けば長くなるのもある。例へば

Aquila	は	Aquila et Antinous	(鷲とアンチヌウス)
Argo	は	Argo Navis	(アルゴ船)
Columba	は	Columba Noachi	(ノアの鳩)
Coma	は	Coma Berenices	(ベレニセの頭髮)
Mensa	は	Mons Mensae	(平 山)
Volans	は	Piscis Volans	(飛 魚)
Scutum	は	Scutum Sobieskii	(ソビエスキの楯)
Fornax	は	Fornax Chemica	(化 學 爐)

と言ふべきだが、普通には簡単なまゝで通つてゐるから、表の中には略した。

第3段は日本語譯。

第4段は其の星座中に肉眼で見える星の數とは書いたが、實は5等以上の星數である。

第5段は其の星座の中心が夕暮に子午線を通過する時期で、大體は日本の中央——即ち、京阪地方——で見える様子を書いたのである。何月とも書かないで、單に黒點を打つたのは、南極地方の星座で、日本内地あたりからは全く見えないものである。

天球上に於て星座と星座との境界は案外明瞭でない場合が多い。之れ畢竟するに、星座といふものゝ元の起りが、現今のやうに天全體の面積を適當に區分して天の總ての部分必ず何かの星座中に含めてしまはうといふやうな目的で出来たものでなく、唯、見て都合の好い星を幾つかの團體に見立てたといふのに過ぎなかつたのであるから、言はず何の星座にも組み入れられず、全く等閑視されてゐた星も少くは無かつた。ところが、かういふ有様では天球上の事情を言ひ表はすのに頗る不備不完全であるといふところから、遂には今のやうに原則として天全體を必ず何かの星座に含むやうに扱はれるに至つたのである。しかるに、此の星座の境界を如何にして明瞭に決定すべきかについては、近頃まで全く嚴密な方法が無かつたので、止むなく多くは前述フラムスチード目錄に記載してある星の分布によつて大體の境界を定めるに止まる有様であつた。

(つづく)